



2017. World Supersport Championship round - 9 Germany Lausitzring 19-20 August

大久保光フリー9番手・予戦 11 番手・決勝 23 位

ワールドスーパースポーツ第9戦がドイツ、ラウジッツリンクで開催されました。ユーロスピードウェイ・ラウジッツリンクは、ヨーロッパでは珍しいオーバルトラックで、内側にはロードコースが併設されています。オーバルコースを併用するロングストレートとインフォールドにつくられたテクニカルコースは抜き所の少ない難コースとして知られています。

大久保光は、鈴鹿8時間耐久レースに参戦、スーパーバイクからスーパースポーツへと乗り換え、フリー走行では9番手タイムを記録し、好調な滑り出しを見せます。ですが、土曜日のFP3でアクシデント発生、リヤブレーキが外れるというトラブルで、走行をフィニッシュします。調子が良かっただけで、メカニックの閉め忘れという信じられない事態に落胆しますが、予選 11 番手となります。

決勝では、ライバルの多くがソフトのタイヤ選択をしますが、大久保はハードをチョイス。朝の走行の感触も良く決勝への手応えを感じてグリッドへと突きます。トップ集団の5台を追う、6番手から14番手のセカンド集団で、大久保は前に出るチャンスを探しながら周回を重ねましたが、クラッチトラブルが起きていることに気が付きます。そのトラブルと格闘しながら、チェッカーを目指しましたが、遂にギアがニュートラルに入ったままとなり、コントロール不能でコースアウト、グラベルに出てしまいます。なんとか転倒を免れました。レース終盤に転倒事故が発生、16周を終えた時点でレース成立。大久保は23位となりました。

大久保光

「鈴鹿8時間耐久後のレースだったので、初日の走行は、スーパースポーツに感覚を戻すために走り込みを中心にメニューをこなしました。ここは、昨年のベストリザルトが残ったサーキットなので、自分でも期待している部分もありました。ですが、FP2は、トラブルで、まったく走ることが出来ずに終わってしまいました。決勝では、路面温度が低いこともあり、多くのライダーがソフト目のタイヤを選んだのですが、自分はハード目をチョイスして、追いつけようと思いました。その作戦は当たっていたと思います。序盤はきつかったのですが、セカンド集団の前に出る自信はありましたし、思惑通りに、周回を重ねると、ライバルのペースが落ちて行きました。ですが、クラッチトラブルで、まったく走れる状況ではなくなってしまいました。順位を落とすことになりました。昨年からとトラブルが多く、その度に話し合い、解決に努めて来ましたが、今回はミスが続いたことで、その対策に真剣に取り組んで行かなければと考えています。チームとの信頼関係回復に努めます。今回は、きっと、いい報告が出来ると思っていたのですが、期待に応えることが出来ずに、申し訳なく思っています。次戦では、納得できる走り、最高のレースでしたと言えるよう取り組みます」

※次回は9月17日ポルトガルの報告をさせていただきます。

CIA ランドロードインシュアランス◆チームリリースに関するお問い合わせ先 : no1_hikari@yahoo. co. jp [大久保 光]

